

Ⅲ 校 内 研 修

(学習指導案)

- 1 単元名 大きくなあれわたしの野菜Ⅱ
～今度は冬野菜でパーティー～



2 指導観

- 本学級の児童 17 人（男子 8 人，女子 9 人）は，1 学期の「大きくなあれわたしの野菜Ⅰ」では，自分が育てる野菜に名前を付けたり，毎朝水やりをしたりして大切に育てることができた。また，観察する際の視点を考え，成長したことや疑問に思ったことをカードに記録し，自分の野菜に親しみや愛着をもつことができた。さらに，野菜の成長を身近に感じたり，収穫の喜びを感じたりすることもできたが，より大きく育てるための工夫についての気付きは深まっていない。

- 本単元は，学習指導要領の内容（7）「動植物の飼育・栽培」を受けて設定した。児童が自らの手で野菜を育てることを通して，野菜が成長していることに気付くとともに，植物に愛着をもち，大切に育てることができるようにすることをねらいとしている。

世話の仕方については，1 学期に夏野菜の栽培活動を行った経験を基に友達の野菜の育ち方や様子を比べたり，重ねたりしながら自分の野菜に対する愛着を深めたい。また，自分の育てた野菜のことをみんなに知ってもらいたいという思いを高め，伝え合う活動を設定し，野菜の栄養や体へのはたらきに気付くことができるようにする。このように児童の思いや願いを大切に了一連の学習活動を通じて料理を作っている人への感謝の気持ちをもつことができるという上でも大変意義深い。

- 本単元の指導に当たっては，出会いの段階において，身近な生活の中から給食や家庭，学園で食べている冬野菜を出し合い，知っているようで知らない育ち方や食べ方に疑問をもち「夏野菜みたいに大きく育ててみたい」「おいしく食べる方法を知りたい」「みんなで食べてみたい」という思いを引き出したい。その後，大根・かぶ・人参の3種類の野菜の中から自分が育てたい野菜を選び，友達と相談したり，図鑑で調べたりしながら必要な情報を集める活動を仕組む。グループ別に苗を植え，継続的に世話をしながら，見たこと・感じたこと・聞こえたこと・手触りや匂い等が簡単に書けるカードを活用し表現する。夏野菜と同じように心を寄せながら世話を続けることで「ぼく・わたしの冬野菜」という親しみや愛着を深め，「おいしく食べてみたい」「もっと冬野菜のことを知りたい」という思いにつなげる。（常時活動における世話を継続し「五感別カード」に書き溜めておく。）

次に収穫後の事について話合い，冬野菜のおいしい食べ方や野菜のすごいところをもっと知りたいという思いを高める。そのために家族や栄養教諭にインタビューしたり，図鑑や本で調べたりする計画を立て，グループ別に調べる。その後，友達と伝え合う活動を行う。伝え合う活動においては，発表を聞くだけではなく，質問や感想を言う場面を設定し双方向の伝え合いができるようにする。さらに GT との出会いを仕組み，GT の話から給食に出る3つの野菜は「おもにからだのちょうしをととのえる」ことに気付くようにする。そして，ぼく・わたしの育てている野菜はそれぞれの栄養があることを知り，自分自身の体の成長と関連付

けながら「冬野菜ってすごいな。」という思いを高めたい。

最後に野菜の成長や収穫の喜び，上手に世話ができた自分や友達の成長にも気付くようにする。

活動の前後には，必ず手洗いの習慣をつけ，児童のアレルギーについても事前に把握するなどして十分な対応を考える。

- 食育の観点からは，自分が育てている冬野菜のすごいところを伝える際に，各グループに人形を準備し，それぞれの野菜が体のどの部分の調子を整えるのかを一目でわかるようにする。また，それぞれの野菜の栄養の違いに気付くことで，いつも自分たちの体のことを考えて献立を考え料理を作っている家族や学校や学園の調理師さんに感謝の気持ちをもつことができるようにする。

3 単元目標

知識・技能	○ 植物を継続的に栽培する活動を通して，植物が生命をもっていることや成長していることに気付いている。
思考・判断・表現	○ 植物を継続的に栽培する活動を通して，植物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。
主体的に学習に取り組む力	○ 植物を継続的に栽培する活動を通して，生き物に親しみをもち，大切にしようとしている。

4 食育の視点

食事の重要性（重）	◇食べ物に興味・関心をもち，楽しく食事ができる。
心身の健康（健）	◇好き嫌いせずに食べることの大切さを考えることができる。
食品を選択する能力（選）	◇色々な食べ物や料理の名前がわかる。
感謝の心（感）	◇食事のあいさつの大切さがわかる。

5 指導計画と評価計画（総時数16時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
1 冬野菜を育てよう。 【5】 (1) 冬野菜について調べ育てたい野菜を決める。① (2) 自分が育てたい野菜について調べる。②	○ 家庭や給食に出る冬野菜の名前を挙げながら，育ててみたい野菜を決め，これまでの経験を思い出しながら，上手く育てるための工夫について考える。 ○ 本や図鑑で調べたり，ふれあい農園の「畑の先生」や校務員さんにインタビューしたりして，冬でもおいしく育つことに	【思・判・表】 冬によく食べる野菜や見かける野菜を，日常の経験から思い起こしている。（発言分析） 【態】 友だちと協力して必要な情報を集め，積極的に話し合おうとしている。（発言分析）

<p>(3) 調べたことをまとめ、発表する準備をする。 ①</p> <p>(4) 調べたことを友達と伝え合う。①</p>	<p>気付くようにする。</p> <p>○ 画用紙にまとめたり、写真を活用したりして分かりやすく発表できるようにする。</p> <p>○ 冬野菜の上手な育て方や野菜の特徴について伝え合うことで、「早く育てたい。」「育てた野菜を食べてみたい。」という思いを高める。また、冬野菜を食べるとどんな良いことがあるのかなど次の活動へとつなげる。</p>	<p>【知・技】</p> <p>友だちの発表を、自分の知識や経験と照らし合わせながら聞こうとしている。(記述・発言分析)</p>
<p>※夏野菜を育てた経験を生かして、苗植えを行い、継続的に世話をする。</p>	<p>※名前を付けたり、声をかけたり、手紙を書いたりしながら親しみや愛着をもつことができるようにする。</p>	<p>※世話をして気付いたことや自分の思いなどを記録カードに書き、継続的に評価する。</p>
<p>2 野菜のことをもっとくわしく知ろう。【5】</p> <p>(1) 冬野菜のはたらきやおいしい食べ方を調べる。②</p> <p>(2) 調べたことをまとめ、伝え合う準備をする。 ②</p> <p>(3) グループ別にそれぞれの野菜のはたらきや食べ方を伝え合う。①</p>	<p>○ グループに分かれてそれぞれの野菜のはたらきや食べ方について調べるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本や図鑑、インターネット ・栄養教諭、お家の方、学園の先生等、身近な人にインタビューする。 <p>○ 野菜の栄養や体へのはたらき、美味しい食べ方の工夫について、人形の掲示物を活用して一目で分かるように使って発表の準備をする。</p> <p>○ 野菜の栄養や体へのはたらき、美味しい食べ方の工夫について、人形の掲示物を使って発</p>	<p>【食（選）】</p> <p>育てている野菜が使われている料理に興味をもち、進んで調べようとしている。(行動・記述分析)</p> <p>【態】</p> <p>野菜の栄養や体へのはたらき、美味しい食べ方の工夫に疑問をもち、進んで調べようとしている。(発言分析)</p> <p>【知・技】</p> <p>友だちに伝わりやすいように言葉や順序を考え、友だちと話し合いながら、説明することができる。(発言・記述分析)</p> <p>【食（重・感・選）】</p> <p>食べ物には、色々なよいところがあることに気付き、栄養のバランスを考えて作って</p>

<p>(本時)</p> <p>(4) 収穫した後、どんな料理にして食べるか、献立を考える。①</p> <p>3 野菜を収穫しよう。</p> <p>【4】</p> <p>(1) 野菜の収穫をする。①</p> <p>(2) 冬野菜パーティーの準備をする。①</p> <p>(3) 冬野菜パーティーをする。②</p> <p>4 学習をふりかえろう。</p> <p>【1】</p>	<p>表する。</p> <p>○ 板書の際、全てのグループの人形の掲示物を黒板に掲示することで、どの冬野菜も食べると体に良いことや美味しく食べることができるように色々な工夫がされていることに気付くことができるようにする。</p> <p>また、調理師さんやお家の方が自分たちの体のことを思って料理を作ってくれていることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ これまで調べたことを参考にしながら献立を考える。</p> <p>○ 調べる過程で、他のグループの友だちにも食べてほしいという意欲をもたせ、冬野菜を使ったおすすめ献立を紹介する。</p> <p>○ 収穫の喜びを味わうことができるような声かけをする。</p> <p>※今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、安全面を配慮し学校で野菜パーティーをせず、家庭や学園に持ち帰り、児童と一緒に調理し、試食してもらうように保護者に協力を依頼する。</p> <p>○ 夏野菜の時よりも上手に世話ができるようになった自分の成長に気付いている児童を取り上げ称賛し、全体に広め、育ててきた野菜の成長とともに</p>	<p>くれている方々への感謝の気持ちに気付くことができている。(発言・記述分析)</p> <p>【食(選)】</p> <p>育てている野菜が使われている料理に興味をもち、進んで調べようとしている。(行動・記述分析)</p> <p>【態】</p> <p>育ててきた野菜の成長を喜びながら大切に収穫している。(行動観察、発言分析)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>世話を続けてきた野菜と自分との関わりを振り返り、表現している。(発言分析・カード分析)</p> <p>【知・技】</p>
--	--	--

	<p>に自分や友達も成長してきたことに気付くようにする。</p> <p>○ 野菜についていろいろ教えていただいた方にお礼の気持ちをこめて収穫の喜びを手紙などで伝えるようにする。</p>	<p>冬野菜作りを振り返る中で夏野菜の時よりも上手に育てることができるようになった自分や友達成長に気付いている。(発言分析・カード分析)</p>
--	--	--

6 本時の学習 令和2年 12月 16日(水) 第5校時 於2年1組教室

(1) 主眼 冬野菜のよいところを伝え合う活動を通して、冬野菜の特徴や調理に関わっている方の思いや願いに気づき、自分の野菜への親しみや愛着をさらに高めることができるようにする。

<食育の視点>・好き嫌いせずに食べることの大切さに気付く。【心身の健康】

・食事を作ってくださっている方への感謝の気持ちをもつ。【感謝の心】

(2) 準備 掲示用の人形, 説明の吹き出し

(3) 展開

主な学習活動	○指導・支援上の留意点【観点】評価規準(評価方法)
1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確かめる。	○ 自分の冬野菜のよさを早くみんなに伝えたいという前時の振り返りから本時のめあてを確かめる。
<p>めあて 友だちと自分のやさいのよいところ(えいようや食べ方)をつたえ合おう。</p>	
2 グループごとに発表する。 ・かぶグループ ・にんじんグループ ・だいこんグループ	○ 伝える側は、聞く人に思いが伝わるように、掲示用の人形に野菜のはたらきや栄養などを書いたカードを貼りながら発表する。聞く側は、自分の野菜と比べながら友達の野菜のよいところに気付いたり、新たな疑問をもったりすることができるようにする。
3 GT(校長先生)の話聞く。	○ GTは、調理をする人は工夫して調理し、おいしく食べてほしいという願いをもって作っていることを伝え、自分たちが調べた野菜のはたらきや栄養と比べたり、重ねたりしながら感謝の気持ちをもって残さず食べたいという思いや願いをもつことにつなげることができるようにする。
4 本時の学習を振り返る。	○ 振り返りの板書をする際、3つのグループの掲示物を示すことで、どの冬野菜も食べると体に良いことや美味しく食べることができるように色々な工夫がされていることに気付くことができるようにす

	<p>る。また、調理師さんやお家の方が自分たちの体のことを思って料理を作ってくれていることに気付くことができるようにするとともに収穫への期待が高まるようにする。</p> <p>【知・技】【食（重・感・選）】</p> <p>学習を振り返り、野菜にはいろいろな働きや栄養、おいしい食べ方があることに気付いている。また、栄養のバランスを考えて作ってくれている方々への感謝の気持ちに気付くことができる。（発言・記述分析）</p>
--	---

第3学年1組 総合的な学習の時間指導案

指導者 北九州市立松ヶ江北小学校 教諭 武藤 敦子

1 単元名 松北給食たんけん隊②



2 指導観

- 本学級の児童は(男子7名, 女子8名)は, 学習に対して何事にも意欲的に取り組むことができる。食に対しては, 好き嫌いがある児童も多く, 残食の量が多いわけではないが, 「日常的に残食がある」という実態がある。また, 自分の嫌いな食材に関しては, 調理法(献立)が変わっても手を付けず残してしまう児童がいる。

児童は, 10月からの総合的な学習の時間「松北給食たんけん隊①」では, 給食の献立表を調べることで出てきた疑問をグループに分かれて調べ, それぞれのグループで調べたことをまとめ, 発表をした。学習を通して, 給食への関心が少しずつ高まり, 給食時間に, 自分たちが調べた「一汁三菜」や「栄養グループに関すること」, 「材料」について会話をする姿が学習前に比べると多く見られるようになった。しかし, 「給食の材料がどこから来ているのか」という疑問の解決や「地産地消」の意味やよさを理解していない。また, 生産者の存在を意識している児童はいない。調べ活動に関しては, 本やインターネット, インタビューの方法を学び, 模造紙で調べたことをまとめて発表するという経験をしたところである。

- 本単元は, 小倉南区で作られている大葉春菊の生産者の思いや願いについて, 生産者と関わりながら調べていく学習である。「松北給食たんけん隊①」では, 給食の献立から疑問に思った「一汁三菜」「栄養」「食事のマナー」「行事食」について調べた。さらに, 本単元「松北給食たんけん隊②」では, 疑問の一つでもある「給食の材料」について調べていく。給食の材料としても出されている大葉春菊の生産者との交流を通して, 生産者の野菜作りに対する思いや願いを感じ取る。そして, 自分たちでさらに探究的な活動を行うことで, 給食に出てくる野菜を育ててくれている生産者や給食に関わっている人に対して, 感謝の気持ちをもって給食を食べようとする気持ちを育てていきたいと考えた。また, いろいろな調べ活動の仕方を学ぶ機会にもしていきたい。
- 本単元の指導に当たっては, 出会いの段階では, 栄養教諭から「給食の材料はどこから」の話聞き, 若松区や小倉南区で作られた野菜が給食に使われていることに気付くようにする。小倉南区特産大葉春菊の生産者の岡村さん, 畑の写真を児童に見せることで, 大葉春菊や生産者の岡村さんに着目させ, 行ってみたい, 岡村さんに会いたいという気持ちを高める。緊急事態宣言下の今, 見学に行くことは難しいため, 教師が児童の質問紙を持って岡村さんと畑のビデオ撮影をするようにする。岡村さんとは事前に打ち合わせを行い, 児童の質問に合わせて生産者としての思いや願いを伝えてもらうようにする。VTRの視聴後, 分かったこと, 岡村さんの思いや願い, 思ったことや考えたことをYチャートで整理し, そこからどのように表現するかを考える。そして, 表現するためにさらに調べたいことを, 岡村さんにFAXをしたり, 栄養教諭にインタビューしたりして調べる。調べたことをグループ

ごとにまとめ、発表し、交流する。

さらに、一連の学習活動を通して、調べる方法やまとめ方、発表の仕方等、総合的な学習の時間の学び方について学ぶことができるものと考えられる。

- 食育の指導に当たっては、栄養教諭から給食の食材について話を聞き、給食の食材が自分の身近なところから届いていることや、地産地消のよさについて気付くようにする。また、大葉春菊の生産者との交流を通して、大葉春菊への興味や生産者への思い、さらに小倉南区の特産である大葉春菊に対する思いを高めていきたい。

3 単元目標

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたい事柄について、見学したり、生産者の方にインタビューやFAXをしたりして調べることができる。 ○ 給食に使われている野菜の特徴やよさを理解する。生産者の思いや願い、工夫や努力を理解する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べたり見学したりして分かったことや考えたことをまとめ、伝えたい相手に分かりやすく表現することができる。 ○ 課題について調べたり見学したりしたことから、考えをまとめ、振り返ることができる。
主体的に学習に取り組む力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 給食に使われている野菜の特徴やよさに気付き、自分の食生活に生かしていこうとしている。 ○ 給食に使われている野菜に興味をもち、進んで調べたり考えたりし、給食を感謝しながら食べようとしている。

4 食育の視点

食事の重要性（重）	◇三食規則正しく食事をとり、生活のリズムを整える事の大切さが分かる。
心身の健康（健）	◇健康に過ごすためには食事が大切であることを知り、好き嫌いなく食べようとする。
食品を選択する能力（選）	◇食品の名前や食べ物の働きを知り、食べ物を選ぶことができる。 ◇地産地消について理解し、食品を選んだり、食べたりするときの判断の一つとして考えることができる。
感謝の心（感）	◇食事は多くの人々の努力があって作られていることを知り、食事に関わる人々に感謝の気持ちをもつ。
社会性（社）	◇食事のマナーを知り、いろいろな友達とも仲良く食事をする。
食文化（文）	◇各地域の産物や郷土食に関心をもつ。 ◇地域の特産物のよさや特質を知り、特産物を大切にしたいと思いをもち。

5 指導計画と評価計画（総時数 23時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
<p>1 栄養教諭から、「給食の材料はどこから」について話を聞く。②</p> <p>2 大葉春菊について調べる。③ (1) 本やインターネットを使って調べる。 (2) 岡村さんにインタビューする。</p> <p>3 岡村さんからのVTRを見て、分かったことなどを整理する。⑥ (1) 調べて、 ①分かったこと ②岡村さんの思いや願い ③思ったこと、 考えたこと に整理し、表現の方法を考える。③ (本時3/3)</p>	<p>○ 「地産地消」のよさについて気付けるようにする。</p> <p>○ 献立にある★（県内産）☆（市内産）についての話から、給食には県内産や市内産の野菜が多く使われていることに気付くようにする。</p> <p>○ 若松区や小倉南区で作られた野菜が給食に使われていることに気付いたり、昨年度の3年生が実際に見学に行ったことを伝え、関心を高めたりする。</p> <p>○ 実際に大葉春菊を見せたり、ビニールハウスや岡村さんの写真を見せたりする等、「行ってみたい、見てみたい、聞いてみたい。」という思いを高める。</p> <p>○ 岡村さんに質問したいことを質問カードにまとめる。</p> <p>○ Yチャートに書いた内容を確認する。</p> <p>○ Yチャートを使って、自分の考えを伝え合う。</p> <p>○ 各自の作成したYチャートをもとに、全員でYチャートに整理していく。</p>	<p>【主・食(文)】 若松区や小倉南区で作られた野菜が給食に使われていることを知り、給食の材料に対して関心をもっている。(発言分析・記述分析)</p> <p>【主】 大葉春菊やビニールハウス、岡村さんの写真を見たり、大葉春菊の味噌汁を食べたりして、質問したいことを進んで考ようとしている。(行動観察・記述分析)</p> <p>【思】 岡村さんの話を聞いて(VTR)、分かったことや思ったことをまとめることができる。(記述分析)</p> <p>【食(感)】 大葉春菊は生産者の努力があって作られていることを知り、感謝の気持ちをもっている。(行動観察・記述分析)</p>

<p>(2) さらに調べたいことを Yチャートで整理・分析した内容から決め、課題別グループを作る。①</p> <p>①育て方グループ ②つくる苦労グループ ③大葉春菊レシピグループ</p> <p>(3) 課題別グループで調べ活動を行う。②</p>	<p>○ 育て方、苦労グループは、さらに調べたいことをまとめ、自分たちで FAX のボタンを押して、岡村さんに送信する。</p> <p>○ レシピグループは、苦みの少ないレシピを調べるために、栄養教諭にインタビューする。</p> <p>○ FAX の返信やインタビュー結果を整理し、伝えたいことを考える。</p>	<p>【知】 自分なりに工夫して必要な情報を得ることができる。(行動観察・記述分析)</p>
<p>4 大葉春菊の課題別に、表現の仕方を考える。⑦</p> <p>(1) 発表の準備をする。④</p> <p>(2) 模造紙にまとめる。③</p>	<p>○ グループごとに模造紙一枚にまとめる。</p> <p>○ 感想の他、岡村さんや栄養教諭、調理師さんなど、給食に関わっている全ての方のありがたみを感じながらまとめられるようにする。</p>	<p>【思】 岡村さんや栄養教諭から話を聞いて、分かったことや考えをまとめることができる。(記述分析)</p> <p>【主】 給食に使われている野菜の特徴やよさに気づき、自分の食生活に生かそうとしている。(記述分析)</p>
<p>5 他学年に大葉春菊についての発表をする。③</p> <p>(1) 発表の練習をする。①</p> <p>(2) 発表会をする。①</p>	<p>○ 岡村さんや栄養教諭、調理師さんなど給食に関わっている全ての方への感謝の気持ちが伝わるように発表する。</p> <p>○ 相手に伝わるように発表の仕方を支援する。</p>	<p>【食(感)】 大葉春菊は生産者の努力があって作られていることを知り、感謝の気持ちをもっている。(記述分析)</p>
<p>6 「松北給食たんけん隊」の学習を振り返る。②</p> <p>(1) 岡村さんにお礼の手紙</p>	<p>○ お礼の手紙には、発表を</p>	<p>【思】 課題について見たり聞いたり、調べたりしたことから、</p>

<p>を書く。①</p> <p>(2) これからの生活について振り返る。①</p>	<p>振り返りながら書くようにする。</p>	<p>自分の考えをまとめ、振り返ることができる。(記述分析)</p> <p>【食(感)】 給食は、生産者、栄養教諭、調理師の工夫や努力があって作られていることを知り、感謝の気持ちをもっている。(記述分析)</p> <p>【食(健)】 生産者、栄養教諭、調理師の工夫や努力を知り、好き嫌いをなく食べようとする。(記述分析)</p>
---	------------------------	--

6 本時の学習 令和3年2月4日(木) 第3校時 於3年1組教室

(1) 主 眼 調べて分かったことや考えたことを伝え合い、さらに調べたり、表現したりしようという意欲を高めることができるようにする。

<食育の視点>大葉春菊は生産者の努力があって作られていることを知り、感謝の気持ちをもつことができるようにする。**【感謝の心】**

(2) 準 備 Yチャート(各児童)、ワークシート

(3) 展 開

主な学習活動	○指導・支援上の留意点【観点】評価規準(評価方法)
<p>1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確かめる。</p>	<p>○ 自分の調べて分かったことをまとめたYチャートを確かめ、本時の学習への意欲をもつことができるようにする。</p>
<p>めあて 大葉春菊や岡村さんについて、分かったことや考えたことを伝え合おう。</p>	
<p>2 「分かったこと」「岡村さんの思いや願い」を全員で確認する。</p>	<p>○ 自分のYチャートを確認しながら、全員が自信をもって発表し、学習に主体的に参加できるようにする。</p>
<p>3 「思ったこと、考えたこと」をペアおよび全員で伝え合う。</p>	<p>○ Yチャートに書いたものを見せながら、友達に分かりやすく伝えられるようにする。</p> <p>【食(感)】 大葉春菊は生産者の努力があって作られていることを知り、感謝の気持ちをもっている。(行動観察・記述分析)</p>
<p>4 全員でまとめたYチャートを見ながら、さらに調べたいことや伝えた</p>	<p>○ Yチャートにそれぞれの意見を板書し、調べたことや考えたことをこれからどのように表現していくか、</p>

<p>いことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大葉春菊についてまとめたい。 ・もう一度、岡村さんにインタビューしたい。等 <p>5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもち、振り返りカードを書く。</p>	<p>各自考えを持つようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Yチャートを見ながら、さらに調べたいことや伝えたいことを話し合う。 <p>【思】</p> <p>分かったことや考えたことを、どのように表現したらよいかを考えることができる。(発言分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんな観点でまとめるか、グループをつくる等、次時の見通しをもつ。
---	---

指導者 川上 美穂

1 単元名 「猿喰新田のよさを伝えよう～われら猿喰新田伝え隊～」



2 指導観

○ 本学級の児童（男子8名，女子5名）は，生活科の学習では，2年生の時のサツマイモパーティーや，3年生の大場春菊（松北やさいたんけん隊）などを学習し，地域の方と多く触れ合ってきた。しかし，今年度は，新型コロナウイルス感染症対策のために，さまざまな学習活動が制限された。11月からようやく，地域の方との交流が僅かながらも復活し，「ふれあい農園」や校内の畑で冬野菜を育てることができた。既学年で作物を育てた経験もあることから，社会科の「石原宗祐と新田開発」の学習では，新田を開発した先人の苦労や工夫など素直に目を向けることができた。

しかし，歴史的な史実は学習できても，今でも受け継がれ伝えられているさまざまなことがあり，それを支える人々や苦労があることに十分に気付いていない。また，自ら地域に出かけてインタビューをして調べる学習経験も少なく，自分達の地域の素晴らしさに気付き，愛着や誇りをもつまでには至っていない。

○ 社会科「石原宗祐と新田開発」の学習で，猿喰新田をつくった先人の働きや，努力については学習している。本単元では，その発展として現在の猿喰新田に関わりの深い人々と交流をしていくことで，問題を解決する資質や能力を培っていく学習である。さらに，地域活性化に取り組んでいる「猿喰ブランド委員会」の方々に出会い，その強い思いを感じ取ることは，地元に対する愛着を深め，自分の住む地域に誇りをもつうえで大変意義深いものと考えられる。そして，歴史的史実はもとより，猿喰新田で獲れる米を使ってできる甘酒や純米酒などにも着目し，なぜそれらが作られ始めたのかを調べ伝える方法に取り組むことで，地域で獲れる米の素晴らしさ，「猿喰のお米ってすごいね！」という思いを実感させたい。

○ 本単元の指導に当たっては，出会いの段階では，猿喰新田で獲れた米でつくられた甘酒を見せることで，「食」に興味をもたせる。そして，校区にある「猿喰新田」に見学に行く。その際，石原宗祐の子孫である石原二郎さんとの出会いの場を設け，話を聞いたり，実際にゆかりの場所と一緒にいたりして，史実の重みも感じ取り，石原さんの思いに気付かせるようにする。見学によって「猿喰新田」が自分たちの校区にあることを実感し，この地域の宝が，誰によってどのように現在に伝えられているのかということに気付かせたい。

追求する段階では，ウェビングマップを使って「猿喰新田」について今まで学習したことを出し合う。他の学年や地域の人に，「猿喰新田」を知っているか，特に，他校の4年生に，猿喰新田の米でつくった「甘酒」のことを知っているかなどのアンケート調査を行う。このアンケート結果を整理分析し，自分たちがどんなことを誰に伝えたらよいかを考える。さらに，「猿喰ブランド委員会」の奥村さんや田村酒店の田村さんとの出会いから，その活動内容や思い，「猿喰新田」で獲れた米でつくられている甘酒や純米酒などの「食」についても，そのよさを多くの人に知ってもらうために，自分たちができることは何かを考えるようにする。

深める段階では、「猿喰新田のこと」、「猿喰ブランド委員会のこと」、「甘酒や純米酒について」の3つの課題別に分かれ、今までの調査活動を通じて集めた情報を思考ツールを使って整理・分析していく。話し合い活動を行いながら、地域の一人として、「猿喰新田」や地域を誇りに思い、大切にしたいという思いをもつことができるようにする。

まとめ・発表については、紙芝居、クイズ、すごろくなど、様々な表現方法を工夫する。そして、表現方法や内容について、まず5年生にアドバイスをもらい、修正しながらさらによりよいものを作り上げるようにする。発表内容を模索することで、「もっと猿喰新田のことを知ってもらいたい」という児童の本気を引き出したい。今年度はコロナ対策により地域行事にさまざまな制限があるため、地域への発信方法に工夫が必要である。まとめ方を工夫して、地域の方々に観ていただけるようにしたい。そして、一連の学習活動を通して、自分自身の成長に気付き、達成感をもつとともに、自分の住んでいる地域に誇りをもち、地域とのつながりや関わりを深めていけるようにしたい。

- 食育の指導に当たっては、出会いの段階において、猿喰新田で獲れた米でつくられた甘酒を見せることで、「食」に興味をもたせる。「猿喰ブランド委員会」の方々の思いを知ること、地域の方々への尊敬や感謝の気持ちをもたせたい。また、猿喰新田の米をつかった甘酒や純米酒を他の地域の人たちにも知ってもらうための取組を模索することで、自分の住んでいる地域の特産物や食文化について理解し、その素晴らしさを「猿喰新田のお米ってすごいね!」という気持ちにつないでいきたい。また、自分の食生活での「米」についても関心を深め、5年生の学習にもつなげていきたい。

3 単元目標

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今も「猿喰新田」を守り続け、よさや素晴らしさを発信している人がいることに気付いている。 ○ 「猿喰新田」の米を使ってできる食べ物の情報を集め、米の素晴らしさに気付いている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思考ツールやアンケートによって、「猿喰新田」についての課題を設定することができる。 ○ 「猿喰新田」について調べたり、「ブランド委員会」の方々の話を聞いたりして分かったことを整理し、まとめ、発表することができる。 ○ 「猿喰新田」を知ってもらう方法を考え、地域の人に発信して知らせることができる。
主体的に学習に取り組む力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 設定した課題に向けて、問題解決のために意欲をもって主体的に調べようとしている。 ○ 「猿喰新田」について考えを深め、地域の一人としてこれからも「猿喰新田」に誇りをもち、地域を大切にしたいという思いをもとうとしている。

4 食育の視点

食事の重要性（重）	◇食事の重要性，食事の喜び，楽しさを知る。
心身の健康（健）	◇心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し，自ら管理していく能力を身に付ける。
食品を選択する能力（選）	◇正しい知識・情報に基づいて，食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。
感謝の心（感）	◇食べ物を大切にし，食料の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。
社会性（社）	◇食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。
食文化（文）	◇各地域の産物，食文化や食に関わる歴史等を理解し，尊重する心をもつ。

5 指導計画と評価計画（総時数34時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価基準及び評価方法
<p>1 学習課題をつくり，学習計画をたてよう。⑬</p> <p>(1) 「猿喰新田」を実際に見学し，守っている人々がいることを知り，その人の思いや願いを聞く。④</p> <p>(2) 社会科で学習したことや石原二郎さんから聞いた話などを出し合い話し合う。①</p> <p>(3) 他の学年や地域の人，他校の4年生に「猿喰新田」のことを聞くアンケートを作る。②</p> <p>(4) 他の学年や地域の人，他校の4年生にアンケートしたことを集計する。②</p> <p>(5) 今も，「猿喰新田」をさ</p>	<p>○ 石原宗裕さんの子孫である石原二郎さんと一緒に「猿喰新田」にゆかりのある場所を見学し，思いや願いを聞く。</p> <p>○ 猿喰新田の米でつくられた甘酒を見せ，史実とともに「米」にも興味をもたせるようにする。</p> <p>○ ウェビングマップを使い，学習したことや知っていることを整理し，アンケート項目に加える。</p> <p>○ 他学年や地域の人，他校の4年生にアンケート調査を行い，「猿喰新田」のことを良く知っている自分達とあまり知らない4年生とのちがいに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 猿喰ブランド委員会の奥村</p>	<p>【知・技】 石原さんの話を聞いて，猿喰新田を守り続けている思いや願いがあることに気付くことができる。(記述分析・行動分析)</p> <p>【知・技】 社会科の学習を振り返り，価値付けしたり，新たな課題を見出したりしようとしている。(発言分析)</p> <p>【思・判・表】 思考ツールを使って整理し，アンケートの内容を考えようとしている。(発言分析・記述分析)</p> <p>【知・技】 アンケート調査の集計に積極的に参加し，アンケートの結果を分析する。(発言分析・記述分析)</p>

<p>まざまなかたちで守っている人々がいることを知り、その人の思いや願いを聞く。③</p> <p>(6) 学習問題を作り、学習計画を立てる。①</p>	<p>さんの思いや、田村酒店の田村さんの甘酒や純米酒への思いや願いを聞くことで、自分達も同じ思いをもち、それを広めていきたいという思いを強くもつようにする。</p> <p>○ これまでの一連の活動から学習問題を作るようにする。</p>	<p>【主】 地域の方の話を意欲的に聞こうとしている。(記述分析)</p> <p>【食(文)】 自分の町に「猿喰新田」という歴史的な文化があることを知り、誇りに思う心をもつ。</p> <p>【主】 自分が調べたい事柄について、必要な情報を調べ、問題解決しようとしている。(発言分析)</p>
<p>(学習問題) もっと多くの人に猿喰新田のよさを伝えよう。</p>		
<p>2 「猿喰新田」のよさを伝えるための内容を考えよう。④</p> <p>(1) 課題別に分かれ、調べた情報を整理・分析し、一番伝えたい内容を考える。②</p> <p>(2) まとめる。②</p> <p>3 「猿喰新田伝え隊」として、思いや願いを伝える発表会の準備をする。④</p> <p>(1) まとめたことを基に、どんな方法で発表するか話し合う。①</p> <p>(2) 発表するための模造紙や道具を準備する。⑤</p> <p>(3) 伝えたい内容を発表し、5年生からアドバイスをもらう。〈本時〉①</p>	<p>○ 課題別グループごとに「猿喰新田」のよさや「猿喰新田」に関わる人々の思いや願いが伝わる内容を考えるようにする。</p> <p>○ Yチャートを活用し、調べた内容を思い・観たこと・聞いたことに分類しながら整理し、特に思いや願いに視点をあてることができるようにする。</p> <p>○ グループで調べた情報をまとめるようにする。</p> <p>○ 猿喰の場所やもののよさだけでなく、そこに関わる人のすごさや素晴らしさに気付き、発表するようにする。</p> <p>○ 模造紙や紙芝居、クイズ形式など、相手にわかりやすく伝わる方法を考える。</p> <p>○ グループに分かれ、発表するための作品を作る。</p> <p>○ 児童が考えた発表方法や内容で、まだ足りないことを具体的に伝えてもらうようにする。</p>	<div data-bbox="1098 725 1382 904" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>課題別グループ ①ブランド委員会 ②猿喰新田 ③甘酒・純米酒</p> </div> <p>【思・判・表】 思考ツールを使って整理し、一番伝えたい内容を考えようとしている。(記述分析・発言分析)</p> <p>【思・判・表】 思考ツールを使って整理し、グループで協力して内容を考えようとしている。</p> <p>【主】 自分が調べた事柄について、よりよい発表をするために問題解決しようとしている。</p> <p>【主】 発表会に向けて、積極的に話し合いや準備に取り組んでいる。</p> <p>【思・判・表】 伝えたいことを発表し、よりよい発表の仕方を話し合うこと</p>

<p>(4) アドバイスを基に修正し作り直す。 ②</p> <p>(5) ブランド委員会の方々にリモートで見てもらい、アドバイスをもらう。 ⑤</p> <p>4 「猿喰新田伝え隊」としての思いや願いを伝える発表会をまとめる。 ③</p> <p>(1) 発表会の内容をまとめたものを作成する。 ②</p> <p>(2) 学習の振り返りを行う。 ①</p>	<p>○ アドバイスを基に修・改善を行い、より分かりやすく伝えられるようにする。</p> <p>○ 修正したものを見てもらい、アドバイスをしてもらったり、賞賛してもらったりすることで価値付けを行う。</p> <p>○ 友達と協力して役割分担し、発表会ができるようにする。</p> <p>○ 自分たちの考えた猿喰新田のよさや、もっと多くの人に知ってもらいたいことを伝えるようにする。</p> <p>○ 振り返りを行い、猿喰新田や地域への愛着を深め、自分達が地域の役に立てたという達成感を味わうことができるようにする。</p>	<p>ができる。(行動分析・発言分析)</p> <p>【食(感)(文)】 地域で獲れた米を使った加工品に関心をもつことで、地域の方々への尊敬や感謝の心を持ち、米の素晴らしさを感じることができる。</p> <p>【主】 アドバイスを基に修正し、よりよいものにしようとしている。(行動分析・発言分析)</p> <p>【食(文)(感)】 ブランド委員会の方々との関りから、地域を誇りに思う心や大切にする地域の方への感謝の気持ちをもつことができる。</p> <p>【主】 アドバイスを基に修正し、さらによりよいものにしようとしている。(行動分析・発言分析)</p> <p>【思・判・表】 友達と協力して役割分担し、活動を行うことができる。(行動分析・発言分析)</p> <p>【主】 「猿喰新田」について考えを深め、地域の一員としてこれからも「猿喰新田」や地域を大切にしたいという思いをもっている。(発言分析)</p>
--	---	---

6 本時の学習 令和3年1月27日(水) 第5校時 於 図書室

(1) 主眼 グループ別に発表を行い、5年生からアドバイスを受ける活動を通して、地域の方の思いや願いをくみ取りながら、「猿喰新田のよさ」を伝える内容の修正・改善について話し合うことができるようにする。

<食育の視点> 調べたことをグループで発表し、地域で獲れた米を使った加工品に関心をもつことで、地域の方々への尊敬や感謝の心を持ち、米の素晴らしさを感じることができる。【感謝】【食文化】

(2) 準備 発表する時に使う資料・道具, 個人用ボード, ホワイトボード, 感想カード

(3) 展開

主な学習活動	○指導・支援上の留意点【観点】評価規準(評価方法)
1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確かめる。	○前時の振り返りを基に本時の学習の見通しを確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて グループ別に発表を行い、5年生にアドバイスをもらいながらよりよい伝え方を話し合おう。 </div>	
2 本時の流れを確認する。	○ 各教室で発表をした後に、5年生にアドバイスをボードに書いてもらうこと、そのわけも聞くこと、終わったら、教室に戻ることを知らせるようにする。
3 各グループの考えた猿喰新田のよさを伝える発表をする。	○ 発表する時には、ソーシャルディスタンスを心がけるようにする。
① 猿喰新田グループ ② 猿喰ブランド委員会グループ ③ 甘酒・純米酒グループ	○ 5年生には、発表の態度や声の大きさなど、発表の技術面だけでなく、内容面やそれぞれ携わる方々の思いや願いについてもアドバイスしてもらうようにする。
4 アドバイスを基に、修正や改善点について話し合い発表する。	○ 発表した後にアドバイスを書いてもらい、わけをきくことで、修正や改善点の話合いに活用できるようにする。
5 本時を振り返り、次時のめあてを確認する。	○ ホワイトボードを使用して、今まで考えていた伝え方をどう修正したかがわかるようにまとめ、発表する。 【思・判・表】 伝えたいことを発表し、よりよい発表の仕方を話し合うことができる。(発言分析・記述分析)
	○ 「次の時間はどんな活動をしたいか」を問うことで、「もっとよりよいものにしていきたい」という次時への学習の意欲を高めるようにする。 【食(感)(文)】 地域の方々への尊敬や感謝の心を持ち、米の素晴らしさを感じることができる。

1 単元名 米プロジェクト ～米の未来を考えよう～



2 指導観

- 本学級の児童は、これまでに3年生の国語科、総合的な学習の時間で「大豆」を、4年生では社会科や総合的な学習の時間において、地域にある「猿喰新田」の学習を行った。「猿喰新田」のことをたくさんの人に知ってほしいという思いや願いをもち、猿喰新田の今や昔について調べたり、猿喰新田を守ってきた人たちの思いや願いを聞き取ったりしながら、探究活動を繰り返し行ってきた。また、現在の猿喰新田の状況や今も引き続き猿喰新田を守っている人たちの取組についても学んでいる。

地域の「食」についての関心が高い一方で、県内の他地域における課題や取組について等、広い視野で「食」をとらえることができていないため、今後は社会科の学習と関連させながら、さらに「米」や「食」全般への関心を高めていく必要がある。

- 本単元は、社会科の我が国の食料生産物の分布やそれらの食糧生産に従事している人々の工夫や努力などの学習と関連させ、食料自給率の低下を切り口とし、その中でも食料自給率の高い「米」の現状と課題について調べていくことで問題を解決する資質や能力を培っていく学習である。まずは、昨年度学習した「猿喰新田」の現在の米の生産量や自給率、休耕田が増えていること等の問題について考える。その後、「猿喰の米」の行方を探究することで、自分たちの地域から市内へ、県へ、全国へと視野を広げながら考えることのできる学習である。また、地域の「米」やそれらに全てに携わる人々の思いや願いについて考える学習は、シビックプラドを醸成し、地域への誇りをもち親しみや愛着を高め、自分自身の食生活や生き方を見つめ直す上で大変意義深い。
- 本単元の指導に当たっては、出会いの段階で社会科の学習と関連させながら日本の伝統食である寿司や蕎麦等の材料のほとんどが輸入によって賄っているのが現状という事実を基に、食料自給率の低下について考える学習を仕組む。その際、食料自給率が年々低下している中で、唯一、100%近い自給率を誇る穀物として米に着目し、昨年度学習した「猿喰新田」の「米づくり」と比較しながら考える学習を行う。猿喰新田の米作りにおいての問題点を想起することで、地域の問題が全国の問題でもあることに気付き、米の自給率を守るためにどうすればよいかという課題意識をもつことができるようにする。その際、これまでの学びを生かし、「猿喰新田」の米作りについて、ウェビングマップ等の思考ツールを使って現状と課題についてまとめ学習問題を設定する。

追究する段階では、米づくりの課題や課題解決にむけて地域の方がどのような取組を行っているのか、インタビュー（奥村さん・石原さん）や4年生の学習で作成した資料やインターネット等を利用し、課題別に学習を進める。4年生の頃の資料を提示することで、インタビューをする相手も児童から名前があがるようにする。何度も聞いたり調べたりする活動を繰り返し、

情報をまとめ、発表資料を作成する。その後、調べた取組をグループ発表することで、自分たちにも「猿喰の米」を守ることができる取組があることに気付くようにする。自分たちが考えた取組を実践する活動を通して、その一つ一つの小さな取り組みが地域の「猿喰新田」から始まり、北九州市へ、福岡県へ、全国へとつながっていくことを実感できるようにする。

深める段階では、昨年度の「伝える会」のビデオを視聴し、できるだけ多くの人に知ってもらったり、取り組んでもらったりする必要があることに気付くようにする。相手意識をもって自分の考えを広く伝える活動につなげ、「もっと米について知ってもらいたい」「みんなで米を守ってほしい」「自分たちも守り続けたい」という児童の本気を引き出したい。表現活動においては、これまでの経験をもとに相手意識をしっかりとちながら、多様な表現方法で伝えることで達成感や充実感、成就感に繋げていくようにする。

これらの一連の学習活動を通して、これまでの経験や社会科や国語科との関連を図りながら、「教師の教えたいことを児童の学びたいこと」になるような学習展開を仕組む。そして、社会科で大切にしたい「人のすごさ」を本単元でさらに身近に感じ、深めることで地域の「ひと・もの・こと」とのつながりやかかわりを深めていきたい。地域とは、本校区という捉えから門司区、北九州市、福岡県へとひろがり、しいては日本全国へと広がっていくと考える。そのためにもまずは、自分が住んでいる身近な地域、北九州市への誇りと愛着を深め、シビックプライドの醸成につなげていきたいと考える。

- 食の指導に当たっては、出会いの段階において、和食の材料になっている食材が輸入によって賄われていることを知らせることで、「食」に興味をもつことができるようにする。また、食糧生産に従事している人々の話を聞く活動を通して工夫や努力、思いや願いを知り、生産者に対する尊敬や感謝の気持ちをもつことができるようにしたい。そして、消費を向上させる取組として安全性を重視していること、米の良さを広めることで食文化を守ろうとしていることに気付き、自分の食生活について振り返ることができるようにしたい。

3 単元目標

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のために取り組んでいる人々の思いと地域の課題を知り、地域の一員としての自分の役割に気付くことができる。 ○ 情報を比較・分類・関連付けるなど探究の過程に応じた技能を身に付けることができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人々の思いや願いに目を向け、これまでの探究との関りから課題を設定しようとしている。(課題設定) ○ 課題を解決するために調査やインタビュー、インターネット等を活用し、必要な情報を収集することができる。(情報の収集) ○ 目的に応じた適切な思考ツール等を選択し、情報を整理分析し、課題解決に向けて考えることができる。(整理・分析) ○ まとめられた情報について多面的に考えたり、目的や相手意識を明確にして、考えや主張を分かりやすくしたりする等、効果的に表現することができる。(まとめ・表現)

主体的に学習に取り組む力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決のために自ら計画を立てて取り組み、主体的に取り組もうとしている。 ○ 地域とつながる活動を通して、進んで実社会・実生活の問題解決に取り組もうとする。
--------------	---

4 食育の視点

食事の重要性（重）	食事の重要性，食事の喜び，楽しさを理解する。
心身の健康（健）	心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し，自ら管理していく能力を身に付ける。
食品を選択する能力（選）	正しい知識・情報に基づいて，食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。
感謝の心（感）	食べ物を大事にし，食料の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。
社会性（社）	食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。
食文化（文）	各地域の産物，食文化や食に関わる歴史等を理解し，尊重する心をもつ。

5 指導計画と評価基準（総時数時間 24 時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価基準及び評価方法
<p>1. 食料生産の現状について話し合う。【4】</p> <p>(1) 寿司・蕎麦の材料の自給率が かかれた資料を見て，気付いた ことを出し合い，食料自給率が 低いとどのようなことが問題に なるのかを考える。①</p> <p>(2) 「米」について焦点化し，昨年 度学習した「猿喰新田」の米作 りについて話し合う。①</p> <p>(3) 奥村さんの話を聞く。①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な食材についての資料 を提示することで「食料自給率 が低く，足りないものを輸入で 賄っている」「米の自給率だけ が高い」の2点に気付くことが できるようにする。 ○ 輸入に頼る危険性から，自給 率の高い「米」の生産を安定さ せることが大切だということ に気付くようにする。 ○ 猿喰新田の米作りの現状や 課題についてウェビングマッ プを活用しながら，知識や経験 をもとに話し合い，「米」の問 題が自分たちの身近な問題で あることに気付くようにする。 ○ 昨年度かかわった奥村さん を思い出し，米作りの現状と課 題，取組についての話を聞き， 	<p>【知・技】 自給率が低い食品は， 輸入によって賄っている ことに気付くことができ る。（発言・記述分析）</p> <p>【知・技】【食(選)】 輸入に頼る危険性につ いて考えることができ る。（発言・記述分析）</p> <p>【思・判・表】 思考ツールを使って， 米づくりの課題を整理す ることができる。（記述分 析）</p>

<p>(4) 学習問題をつくり，学習計画を立てる。①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題1 プロジェクトI 「猿喰新田」の米づくりの現状や課題について調べ，自分にできることを考えよう。</p> </div> <p>2. 米作りの現状や課題，取組についての調査を行う。【7】</p> <p>(1) 昨年度調べた内容を見直し，猿喰新田の現状を話し合う。①</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生産量が減ってきている。 ○消費量を増やすためにしていること。 ○休耕田が増えているため，それを利用し，もち米を作り甘酒を作っている。 ○猿喰の良さを発信している。 ○後継者が減っているため，奥村さんを中心に様々な取組を行っている。 ○自然災害について（2年前の大雨で新田はまるで海のようになった）等 <p>(2) 課題別に教科書，インタビューや見学，インターネット等で繰り返し調べる。③</p> <p>(3) 調べた情報を整理・分析し一番伝えたい内容を考え，まとめる。①</p>	<p>社会科で学習した既習の知識を生かしながら考，もう一度調べてみたいという思いをもつことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度作成した発表資料や発表ビデオ等を見直し，「米づくり」に焦点を当てて課題をつくる。 ○ 奥村さんに食べさせてもらった米のことを思い出し，あんな美味しい米をこれからも作り続けていきたいという思いを高める。 ○ 社会科で学習した生産量や後継者問題と関連付けながら身近な問題として捉えることができるようにする。 <p>○ Yチャートを活用し，現状や課題，自分たちにできることに分類しながら整理し，人の思いや願いを中心に伝える内容を決める。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>地域の人の思いや願いに目を向け，これまでの探究との関わりから課題を設定することができる。(発言・記述分析)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>課題を解決するために調査やインタビュー，インターネット等を活用し，必要な情報を収集することができる。(行動分析・記述分析)</p> <p>【主】</p> <p>自分が調べたい事柄について，必要な情報を取捨選択し，問題解決しようとしている。(行動分析)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>目的に応じた適切な思考ツール等を活用し，情報を整理分析し，課題解決に向けて考える。(行動分析)</p>
---	--	---

<p>(4) 調査した内容を交流し合い、取組の中で自分たちにできそうなことを考え、これから実践できそうなことを考える ① <本時></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題2 プロジェクトⅡ 猿喰の米など、米のよさを伝えよう。</p> </div>	<p>○ 課題別に発表し、どの課題に対しても地域の方が様々な取組を実践しながら努力を続けていることに気付くようする。</p> <p>○ 奥村さんや石原さんと共に地域の一員として自分たちにもできる取組があることに気付き、次の学習問題を設定する。</p>	<p>【思・判・表】 米作りに関わる人々が行っている取組の中から、自分ができそうな事を考えることができる。 (発言・記述分析)</p> <p>【食(感)】 生産者の願いや苦勞を知り、感謝の気持ちをもつ。</p>
<p>3 「米」の良さを伝えるための取組を考えよう。【7】</p> <p>(1) 課題別に分かれ、調べ学習をする。③</p> <p>(2) 調べた内容を整理・分析し、伝えたい内容をまとめる。③</p> <p>(3) 調べたことを伝え合う。①</p>	<p>○ インタビューや見学、インターネット等を利用して調べる。</p> <p>○ 必ず実践できる内容を分かりやすくまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PCを活用したプレゼン ・写真や画用紙、模造紙 ・実演 等 <p>○ 生産者の思いや願いが伝わる内容になっていることを確認する。</p> <p>○ グループ同士で伝え合ったり、地域の方に聞いてもらったりしながら、実践できる内容に絞っていく。</p>	<p>【知・技】 調べたい事柄を適切な方法を選択して調べることができる。(行動分析)</p> <p>【思・判・表】 目的や意図に応じて分かりやすくまとめ、工夫して表現することができる。(発言分析)</p> <p>【思・判・表】 相手に応じて、発表方法を工夫することができる。(発言・記述分析)</p>
<p>4 「米」の良さを伝えよう。【6】</p> <p>(1) 米の良さを伝える計画を立てる。①</p> <p>(2) 発表するための準備をする。③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PCを活用したプレゼン ・写真等・模造紙・画用紙 ・動画(HPにアップ) 	<p>○ 自分たちの考えた取組を誰にどのような方法で発表すればよいかを考えさせる。</p> <p>○ 4年生での発表経験をもとに、相手に分かりやすく伝わる方法を考えさせる。</p> <p>○ 誰に伝えたいかを相手意識をはっきりとし、準備をする。</p>	<p>【主】 発表会に向けて、積極的に話し合いや準備に取り組んでいる。(行動分析)</p>

<p>・実演 ・幟やポスターなどのグッズ等</p> <p>(3) 「米」の良さを伝える 「未来を考えよう，米プロジェクトX」の会を開催する。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方 ・全校児童 ・区役所の方など <p>5. 学習の振り返りを行う。【1】</p>	<p>身近な地域から北九州市や福岡県へと意識を広げ，この発表が日本を変える「米プロジェクト」の一步であることを実感できるように支援する。</p> <p>○ 米の良さを考えたり，伝えたりする活動を通して学んだこと，これからの食生活にいかせるようにする。</p> <p>○ これまでの学習を振り返り，地域への誇りや愛着を深めるとともに自分たちが地域の一員として役に立てたという達成感を味わうことができるようにする。</p> <p>○ 発表を聞いてくれた方の感想等から，猿喰新田という自分たちに身近な地域のことを良くしようとするのは，北九州市や福岡県，全国を良くしようとすることであり，これからの生き方にも関わってくることに気付くことができるようにする。</p>	<p>【思・判・表】 まとめられた情報について多面的に考えたり，目的や相手意識を明確にして，考えや主張を分かりやすくしたりする等，効果的に表現することができる。(発言・発表資料分析)</p> <p>【主】【食(重)】 自分自身の食生活を見つめ直し，これからの生活にいかそうとすることができる。(発言・記述分析)</p> <p>【知・技】 地域の一員としての自分の役割に気付くことができる。(発言・記述分析)</p> <p>【主】 地域とつながる活動を通して，進んで実社会・実生活の問題解決に取り組もうする。 (発言・記述分析)</p>
---	--	---

6 本時の学習 令和3年2月5日(金) 第3校時 於5年1組教室

(1) 主眼 米づくりに関わる人々が行っている取組を伝え合う活動を通して，どの課題に対しても地域の方が様々な取組を実践しながら努力を続けていることに気付くとともに，自分たちにできることを考えようとする次の学習活動への課題をもつことができるようにする。

<食育の視点> 米づくりに関わる人々が行っている活動を知ることによって，生産者に対して感謝する心を持ち，米の素晴らしさを感じることができる。【感謝】

(2) 準備 発表時に使う資料, ワークシート

(3) 展開

主な学習活動	○指導・支援上の留意点 【観点】評価基準 (評価方法)
1 前時までの学習を想起し, 本時のめあてを確かめる。	○ 前時まで活動を振り返り, 本時の学習の見通しを確認する。
めあて 米づくりについての現状や課題、取組を発表し, 自分にできる取組はないか考えよう。	
2 本時の流れを確認する。	○ 各グループの発表を聞きながら, 自分のグループとの共通点や「自分にもできそうな取組がないか」考えながら聞くようにする。
3 各グループで調べた米づくりに関わる人々の取組を課題別に発表する。 ①生産量を増やすための取組 ②消費量を増やすための取組 ③自然災害から米を守るための取組 ④後継者を増やすための取組	○ 「課題」「その課題が起こる理由」「課題解決のために行っている取組」の順に発表させることで, 聞く側に分かりやすく説明できるようにさせる。 ○ 猿喰新田の米作りの現状や課題, 取組と重ねながら発表するようにする。 【食 (感)】 取組を聞きながら, 生産者の願いや苦労を理解することができる。(記述・分析)
4 各グループが発表した取組の中から, 自分たちができそうな取組を考える。	○ 地域の米づくりに関わる人々と共にできることはないかを考える。 ○ 発表された取組を「できない取組」「できる取組」「一部できそうな取組」の3つに分類させ, 考えを整理する。 【思・判・表】 調べた取組を聞き合い, 自分ができそうな取組を考えることができる。(発言・記述分析)
5 本時の学習を振り返り, 次の学習問題をつくる。	○ まずは, 猿喰新田の米の良さを発信することが全国の米の良さを発信することになることを確認し, 次なる学習問題をつくることで本時のまとめとする。
学習問題2 プロジェクトII 猿喰の米など, 米のよさを伝えよう。	【食 (感)】 米の素晴らしさを知り, 生産者に対する感謝の気持ちをもつ。(記述・分析)